

情報学研究科

I	研究の水準	研究 13-2
II	質の向上度	研究 13-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成25年度から知能情報学専攻に民間企業4社と共同で「エネルギーの情報化共同研究講座」を、社会情報学専攻に民間企業4社と共同で「EHR共同研究講座」を設置して、研究成果の実用化に向けた産学連携活動を行っている。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に所属教員が国際的な学会のプレジデントや運営会議委員等の職を7件、ジャーナル編集責任者を19件務めている。
- 第2期中期目標期間における研究活動の状況について、学術論文の発表件数は年平均351件、教員一人当たり年3件、基調講演・招待講演の件数は年平均59.6件、教員一人当たり年0.5件となっている。
- 平成23年度から平成27年度の科学研究費助成事業について、基盤研究（S）等の大型種目を毎年度14件以上獲得しており、採択件数は年度平均141件（約3億6,600万円）となっている。また、共同研究・受託研究の受入件数は年度平均75件となっている。

以上の状況等及び情報学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、特にソフトウェア、知能ロボティクス、数理物理・物性基礎において卓越した研究成果がある。また、研究成果が各分野においてトップジャーナルへ掲載されているほか、国際会議での基調講演等を行っている。
- 卓越した研究業績として、ソフトウェアの「ソフトウェア検証の基礎理論」の研究、知能ロボティクスの「ロボット聴覚」の研究、数理物理・物性基礎の「脳神経系などの変化するネットワーク上の結合力学系に関する基礎理論」の研究がある。「ソフトウェア検証の基礎理論」の研究は、国際会議 ECOOP での基調講演やオブジェクト指向言語の基礎理論に対する貢献により、平成23年に

Dahl Nygaard Junior Prize を受賞している。

- 社会、経済、文化面では、特にウェブ情報学・サービス情報学において卓越した研究成果がある。また、研究成果がマスメディアで取り上げられている。
- 卓越した研究業績として、ウェブ情報学・サービス情報学の「サービス指向多言語基盤「言語グリッド」の研究開発」がある。「サービス指向多言語基盤「言語グリッド」の研究開発」は、IEEE SCC 2015 の Best Paper Award 等を受賞している。

以上の状況等及び情報学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、情報学研究科の専任教員数は 129 名、提出された研究業績数は 24 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 24 件（延べ 48 件）について判定した結果、「SS」は 3 割、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 6 件（延べ 12 件）について判定した結果、「SS」は 2 割、「S」は 8 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 25 年度から、知能情報学専攻に民間企業 4 社と共同で「エネルギーの情報化共同研究講座」を、社会情報学専攻に民間企業 4 社と共同で「EHR 共同研究講座」を設置し、研究成果の実用化に向けた産学連携活動を行っている。
- 平成 23 年度から平成 27 年度の科学研究費助成事業について、採択件数は年度平均 141 件（約 3 億 6,600 万円）となっている。また、共同研究・受託研究の受入件数は年度平均 75 件となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 受賞者数は第 1 期中期目標期間（平成 16 年度から平成 21 年度）の年平均 33.7 件から平成 22 年度から 26 年度の年平均 34.8 件と同等の水準となっており、科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞 3 件や紫綬褒章等を受賞している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 平成 22 年度から 26 年度における学会賞等の受賞件数は、文部科学大臣表彰科学技術賞 3 件や紫綬褒章等を含め、年平均 34.8 件となっている。